

<アピールポイント>

- ①活動の詳細を以下に自由に記載してください。文字だけでなく、写真など取り組みの様子や活動の風景なども入れても問題ありません。
- ②文字の大きさやレイアウトに指定はありません。
- ③「いつ、誰が、どこで、どのように、何をした、その理由は？」の5W1Hがわかるように、できるだけ具体的に書くことを心がけてください。

■活動のきっかけ、準備期間に関すること等

コロナ禍の中で青年団活動をどのように折り合いをつけていけばよいか
不要不急の用事は控えるように求められる中で、青年団活動（スポーツ、ボランティア、地域活動）は不要不急に含まれるのか、人との接触を避けなければいけないなど、話し合いというよりも言い争いのような形となっ
てしまい、安城市青年団協議会は混乱状態にありました。
自粛すればよいか、頭では理解はするものの、何もできない何もしないのでなく、私たちに何ができるか
自問自答を繰り返す中でオンラインならば可能性があるのではないかと、
とりあえずやってみようとしてオンラインミーティングに取り組むことになりました。

■活動中の苦勞、印象深かったこと等

コロナ禍で工夫した点、苦勞した点
☆苦勞した点 オンライン通信時に不具合が発生したとき、相手が近くにいないこともあり、何が起きているのかわからず、インターネット通信の専門知識がない私にはその場で対応することは難しいことがわかりました。それぞれの通信環境によって画面がフリーズしたり、ラグで動きが遅くなったり、音声聞き取りにくくなること
があり会話にならない時もありました。また通信に問題がなかったとしても、画面を見ながらの会話になる為話の
タイミングが分かりにくいなど、対面で話をするよりも疲れてしまう。
☆工夫した点 オンラインをやる時には事前に接続の確認を行うようにしました。
複数で通話をしているとハウリングや雑音、相槌なども会話のリズムが取りにくくなってしまったりなど、
通常の会話では問題にならないようなことも壁となってしまうため、話す人以外はマイクオフなどの
ルールづくりしました。
オンラインツールは数種類あり青年団活動として利用する場合どれが使いやすいか、実際に使用してみて
それぞれの特性を体験し有効な物を模索しました。

■活動の成果、今後の展望に関すること等

オンラインツールを使う事により同じ場所にいなくても、コミュニケーションがとれるのは素晴らしい。遠方にいる人とコミュニケーションをとる時には、オンラインは有効な手段となり、距離の壁を越えるという体験をすることができました。オンラインであろうと、はじめましての関係から仲良くなることだってできるし、対面していないからこそ気軽にコミュニケーションがとれるようになる人もいることがわかりました。通信は、どこでも出来る方がいいところで、携帯一つで出先から接続することだってできます。

しかし、オンラインも万能ではなく、青年団活動のオンライン活用においての欠点が地域性に欠けることです。何をしようとオンライン上での関係性に留まるという特性があります、オンラインに参加していない人は中の出来事をほぼ知ることはありません。地域に出向いて地域の人と関わりながら活動を行ってきた、現場で活動をいっしょに取り組んでくれた、声をかけて応援してくれた、遠くから見守ってくれた、そういった地域の人との関わりがほとんどないことが決定的な違いです。コロナ禍の青年団活動において、大きな資金を必要とせず、気軽に利用できるオンラインツールは大変素晴らしく、私たちの活動の支えとなってくれたことは間違いありません。しかしながらオンラインに活動を置き換えることはできないと思います、活動を支える補助的な手段としてまだまだ可能性はありますので、今後もやり方等を工夫しながらオンラインの企画を考えていきたいと思います。オンラインが出会わせてくれた仲間、オフライン（現地）で会いたい！ 私たちにはそれができると、信じています。

■自由記述欄（各欄で記載できなかったこと等）

活動家にとって活動できないことが、こんなに辛いことなんだと身をもって知る1年となりました。青年団活動が不要不急であると言われたとき、言いようのない怒りと悲しみと、無力感におそわれました。納得いかないけど受け入れるしかない、今は生き延びて組織を存続させる。スポーツや文化のない世界というものを体感することができた私たちが、再びソフトボールや盆踊りを成功させることができたとき、スポーツや文化をより愛することができるのではないかと思います。

以 上